

2018年8月20日

各 位

株式会社北洋銀行

2018年度「ほっく一障がい者スポーツ基金」贈呈式を開催します

～北海道の障がい者スポーツ選手・団体等に総額694万円を贈呈します～

北洋銀行は、2018年度「ほっく一障がい者スポーツ基金」贈呈式を下記のとおり開催し、北海道の障がい者スポーツに取り組む選手・団体等13先へ総額694万円の寄付金を贈呈します。

「ほっく一障がい者スポーツ基金」は、「パラスポーツ応援債」(2017年2月取扱開始)発行金額の0.2%相当額を、道内の障がい者スポーツ活動に取り組む選手・団体等に寄付を行うものです。寄付先は、「ほっく一障がい者スポーツ基金選定協議会^(※)」での協議の上、決定しました。

当行は、2020年の東京パラリンピックに向けて、地域のお客さまと共に障がい者スポーツを支援するとともに、CSRを経営の重点課題と位置づけ、「地域社会への貢献」に引き続き取り組んでまいります。

(※)選定の妥当性・公平性・透明性を図るため、北海道、札幌市、公益財団法人北海道障がい者スポーツ協会、一般社団法人札幌市障がい者スポーツ協会、株式会社北海道新聞社、当行により構成。

記

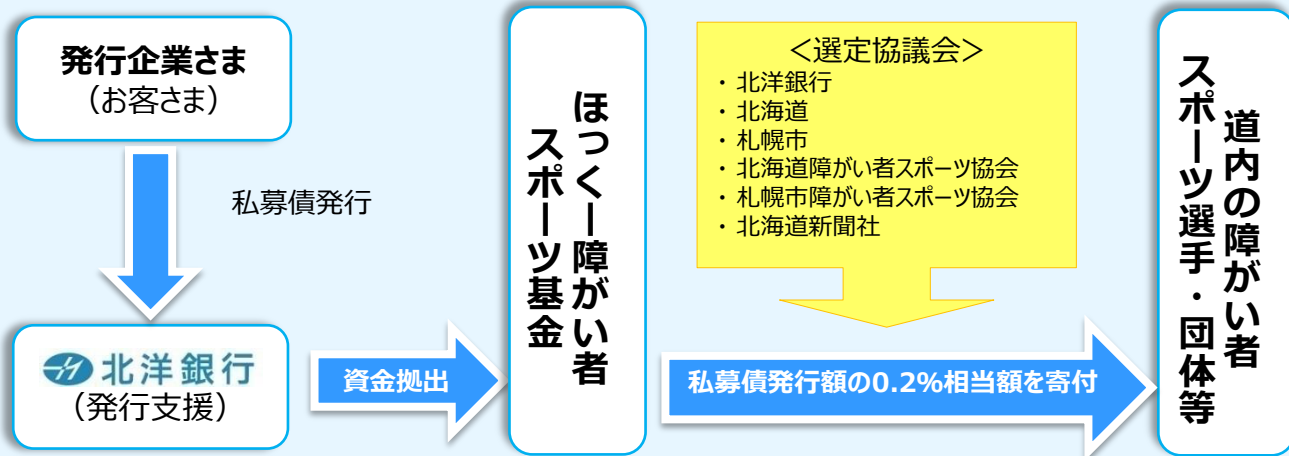
- 日 時： 8月30日(木)15時
- 場 所： 北洋大通センター 4階セミナーホール(札幌市中央区大通西3丁目7番地)
- 式次第：
 - (1) 挨拶
取締役会長 石井 純二
 - (2) 目録贈呈
 - (3) 来賓祝辞
北海道 環境生活部スポーツ局スポーツ振興課
オリンピック・パラリンピック連携室 室長 本田 晃 様
札幌市 スポーツ局長 石川 敏也 様
 - (4) 贈呈先代表挨拶
日本障害者スキー連盟 会長 猪谷 千春 様
- 贈呈先： 13先(別紙)

以 上

2018年度「ほっくー障がい者スポーツ基金」 寄付先のご紹介

「パラスポーツ応援債」について

発行企業さま（お客さま）に私募債を発行いただくことにより、北洋銀行が「ほっくー障がい者スポーツ基金」を通じて、道内の障がい者スポーツ活動に取り組む団体等に寄付金を贈る社債です。



2018年度 寄付先について

2017年度のパラスポーツ応援債発行合計金額が34億7千万円となり、寄付額は694万円となります。寄付先の選定に際し、「ほっくー障がい者スポーツ基金選定協議会」にて寄付目的に関する3つのカテゴリーを設定し、2018年度寄付先を次の13先に決定しました。

カテゴリー1：世界を目指す選手の応援

山本 浩二 選手（競泳）	羽立 祐人 選手（マラソン）
戸田 雄也 選手（パラ・パワーリフティング）	碓井 琴音 選手（車いすバスケットボール）
山口 乃愛 選手（パラサイクリング）	広井 拓 選手（障がい者バドミントン）

カテゴリー2：障がいを持つ子どもたちへのスポーツ普及

北海道身障者スキー連盟	道北地区障害者スポーツ指導者協議会
-------------	-------------------

カテゴリー3：障がい者スポーツの普及・振興活動への支援

北海道「ほっかいどう未来チャレンジ基金」	公益財団法人北海道障がい者スポーツ協会
一般社団法人札幌市障がい者スポーツ協会	2019ワールドパラノルディックスキーWC札幌大会
全日本障害者クロスカントリースキー競技大会	

山本 浩二 選手 (ボランティアチーム「チーム山本」)

1. 選手プロフィール

- ・ 競 技 競泳
- ・ 障 が い 視覚障がい

函館地区障害者スポーツ指導者協議会が「チーム山本」を結成しサポート中

2. 活動の概要

【競技を始めたきっかけ】

6歳で水泳を始め、疾病による視力低下が進み中学3年のときに競技継続を断念するも、筑波大学在学中(24歳)のときに障がい者水泳チーム(東京4TC)のコーチと出会いチームに勧誘され、競技開始。

【主な競技成績】

- ・ 2016年 ジャパンパラ水泳競技大会100m平泳ぎ 優勝
- ・ 2016年 日本身体障がい者水泳選手権大会200m個人M10レ優勝
- ・ 2017年 ジャパンパラ水泳競技大会 100m背泳ぎ 優勝



3. 寄付金の使い道

- ・ 国内大会出場遠征費
- ・ 競技用具購入費 (タッピング棒作製の材料費等)

羽立 祐人 選手 (北極星AC)

1. 選手プロフィール

- ・ 競 技 マラソン
- ・ 障 が い 視覚障がい

日本盲人マラソン協会 強化指定選手

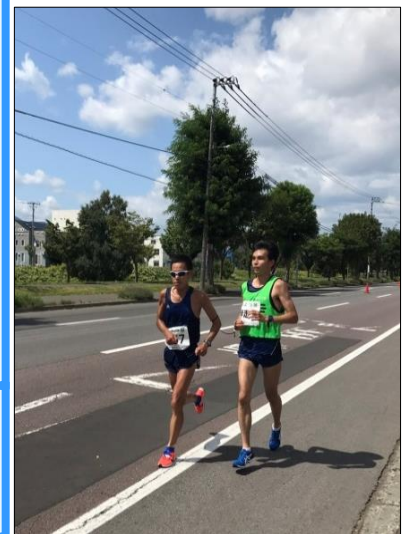
2. 活動の概要

【競技を始めたきっかけ】

2010年に視覚障がい者ランナーの岡村正広選手(リオパラリンピック銅メダリスト)と出会い、本格的にマラソン競技トレーニングを始めた。

【主な競技成績】

- ・ 2017年 IPC Marathon World Cup (ロンドン) 5位
- ・ 2017年 北海道マラソン2017IPCの部 1位
- ・ 2018年 かすみがうらマラソン兼国際盲人マラソン 2位



3. 寄付金の使い道

- ・ 競技大会遠征費、伴走者費用(遠征費や諸費用)
- ・ 競技シューズ、ウェア購入費

戸田 雄也 選手

1. 選手プロフィール

- ・ 競技 パラ・パワーリフティング
- ・ 障がい 脊髄損傷

日本パラ・パワーリフティング連盟 強化指定選手

2. 活動の概要

【競技を始めたきっかけ】

2020年東京オリンピック・パラリンピック開催が決まったとき、自分も挑戦し、絶対に出場したいと思ったため競技を始めた。

【主な競技成績】

- ・ 2016年 全日本選手権 男子59kg級 106kg 1位
- ・ 2016年 全日本選手権 男子59kg級 110kg 1位
- ・ 2017年 メキシコ世界選手権 男子59kg級 121kg 20位
- ・ 2017年 全日本選手権 男子59kg級 125kg 2位



3. 寄付金の使い道

- ・ 国内及び国際大会出場遠征費、トレーニングジム使用料
- ・ 競技用用具購入費

碓井 琴音 選手 (札幌ノースウインド)

1. 選手プロフィール

- ・ 競技 車いすバスケットボール
- ・ 障がい 右足下腿切断

日本車いすバスケットボール連盟 強化指定選手

2. 活動の概要

【競技を始めたきっかけ】

障がいを持つ以前よりバスケットボールをやっており、再度バスケットボールがしたいという思いから、当競技を始めた。

【主な競技成績】

- ・ 2016年 日本車いすバスケットボール選手権大会北海道予選会 優勝
- ・ 2017年 全日本女子車いすバスケットボール選手権大会 準優勝
- ・ 2018年 あじさい杯争奪女子車いすバスケットボール大会 準優勝
- ・ 2018年 JWBF女子強化指定選手



3. 寄付金の使い道

- ・ 大会遠征費、練習遠征費
- ・ スペアタイヤ購入費

山口 乃愛 選手

1. 選手プロフィール

- ・ 競 技 パラサイクリング
- ・ 障 が い 網膜色素変性症

日本パラ・サイクリング連盟 育成選手

2. 活動の概要

【競技を始めたきっかけ】

札幌視覚支援学校の教員に声をかけられ、競技を始める。

【主な競技成績】

大会未出場のため、競技実績なし（2018.8.15現在）



3. 寄付金の使い道

- ・ 競技用ウェア、靴下等購入費
- ・ 大会遠征費

広井 拓 選手

1. 選手プロフィール

- ・ 競 技 障がい者バドミントン
- ・ 障 が い 左膝関節機能全廃

日本障がい者バドミントン連盟 強化指定選手

2. 活動の概要

【競技を始めたきっかけ】

バドミントン競技は中学・高校生時に部活動しており、24歳の交通事故後遺症により障がい者となってから、30歳より競技を再開した。

【主な競技成績等】

世界ランキング（2018.5.30現在）

- ・ シングルス：19位
- ・ ダブルス：24位
- ・ MIXダブルス：19位

3. 寄付金の使い道

- ・ 国際大会出場遠征費



北海道身障者スキー連盟

1. 団体について

設立	1979年11月3日
代表者名	会長 小林 俊勝
会員数	102人
所在地	札幌市豊平区美園9条2丁目6-1
TEL	011-831-3044

2. 活動の概要

【団体の目的】

北海道における心身障害者スキーの普及・発展及び指導の確立と指導者の養成並びにスポーツ精神の涵養を図る。

【主な事業内容】

- ・ 障害者スキー講習会、スキー大会の実施
- ・ 指導者養成、指導法、技術の研究
- ・ 身障者スキー用具の研究開発
- ・ 普通小学校のスキー実習における障がいを持つ児童、生徒の参加支援、技術指導
- ・ スキー実習におけるチェアスキー等の用具貸出事業

【2018年度事業計画】

- ・ 「第40回記念 全道ハンディキャップスキー大会」開催
- ・ 「障害者スキー講習会」開催（通年5回開催予定）
- ・ 普通小学校のスキー実習における障がいを持つ児童・生徒の参加支援や技術指導
- ・ 上記実習におけるチェアスキー等の用具貸出事業

3. 寄付金の使い道

当連盟は、普通小学校のスキー実習における障がいを持つ児童や生徒にチェアスキー等の用具等の貸出事業を行っており、その際に使用するチェアスキーを購入予定。なお、札幌市にて初心者用のチェアスキーを今年度中に購入する予定があることから、当連盟では障がい者用アルペンスキーの中上級者用のものを購入する。



道北地区障害者スポーツ指導者協議会

1. 団体について

設立	2010年11月9日
代表者名	代表 今野 征大
会員数	205人
所在地	北海道旭川市東旭川町旭正315番地2 カムイ大雪バリアフリーツアースター内

2. 活動の概要

【団体の目的】

旭川をはじめとする道北圏でスポーツ・レクリエーションの振興・普及を通して、障がいのある方々や高齢者等が健康の維持・増進や社会参加を促進するため、それらの専門的な知識や技能を身につけた指導者を養成し、パラスポーツの普及・振興を行う。

【主な事業内容】

- ・ パラスポーツ体験やイベントの企画運営
- ・ 障がい者が参加しやすい余暇活動やその環境づくりを実施
- ・ パラスポーツ合宿や地域イベントのサポート等

【2018年度事業計画】

- ・ 7月：ウィルチェアラグビー代表合宿in旭川（企画・サポート）
- ・ 9月：スペシャルオリンピックス旭川合宿・大会（企画・サポート）
- ・ 10月：旭川ハーフマラソン 障がい当事者参加部門（企画・サポート）
- ・ 10月：障がい者スポーツ指導者養成講習会(初級)開催
- ・ 2月：旭川レクボッチャ選手権大会（企画・運営） 等

3. 寄付金の使い道

当協議会保有しているシットスキーは、雪面でのみ滑走できるものであるため、雪がない路上等でも競技選手や体験者が使用・練習できるようにシットスキーに装着する「ローラーアタッチメント」を購入する。



パラスポーツ指導者養成講習会



ウィルチェアラグビー合宿サポート

北海道「ほっかいどう未来チャレンジ基金」

1. 基金について

ほっかいどう未来チャレンジ基金は、北海道に貢献する意欲のある若者の海外での挑戦を官民挙げて応援するため、2016年12月に創設した新しい基金。
世界を視野に入れながら、ふるさと北海道に思いを馳せ、将来の北海道に貢献していく若者たちを応援するもの。

2. 寄付を受けられる方の主な要件

- ・ 2018年4月1日現在、満18歳以上39歳以下の方（学生留学コースを除く）
- ・ 北海道に在住し、北海道の発展や社会のために貢献したい志がある方
- ・ グローバルリーダーを志し世界の人々との交流を通じた経験から学ぼうとする意欲がある方
- ・ 帰国後3年間は本道に居住し、道が主催する交流会・行事等に参加できる方（学生留学コースを除く）など

※支援コースとして次の4種類を用意

「スポーツコース」、「学生留学コース」、「文化芸術コース」、「未来の匠コース」

3. 寄付金の使い道ほか

「スポーツコース」

世界に通用するアスリートを育成・輩出する指導者を目指す若者の海外研修を支援。

⇒ 障がい者アスリート指導者を目指す若者限定で寄付予定

《基金の仕組み》

道内外の個人や企業の皆様のご協力をいただき、若者の海外留学や実践活動を応援していきます。



公益財団法人 北海道障がい者スポーツ協会

1. 団体について

設立	1985年7月
代表者名	会長 相馬秋夫
団体構成員数	役員21人 会員248人
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目 かでる2・7 4階
連絡先	TEL011(261)6970

2. 活動の概要

【団体の目的】

北海道における障がいのある人のスポーツの普及と振興を図り、スポーツを通じた体力づくりや仲間づくりによる社会参加を啓発するとともに、健康で生きがいのある地域社会の実現に努め、福祉の向上と健全な社会の発展に寄与することを目的として活動。

【主な事業内容】

- ・ はまなす車いすマラソン、北海道障がい者スポーツ大会等の各種スポーツ大会の開催
- ・ 全国大会への選手派遣、・スポーツ教室・スポーツ指導者育成講習会の開催
- ・ 2015年より、当行と北海道との包括連携協定に基づく協働事業である「北洋銀行スポーツ応援事業」の事業実施主体として同事業を運営中

【2018年度の事業計画】

- ◆大会開催・派遣事業
 - ・ 第56回北海道障がい者スポーツ大会、第38回北海道障がい者冬季スポーツ大会
 - ・ はまなす車いすマラソン2018、第33回北海道身体障がい者アーチェリー競技大会
 - ・ 第29回北海道障がい者水泳大会、第30回北海道障がい者卓球競技大会
 - ・ 第32回北海道身体障がい者ゲートボール大会、第30回北海道障がい者ボウリング大会
 - ・ 第18回全国障害者スポーツ大会北海道選手団派遣
- ◆教室開催、指導者養成事業
 - ・ 障がい者スポーツ教室、全道巡回障がい児者スポーツ教室
 - ・ 障がい者スポーツ競技指導者研修会、初級障がい者スポーツ指導員養成講習会
- ◆団体助成事業
 - ・ 障がい児者スポーツ団体助成

3. 寄付金の使い道

障がい者を参加対象とした事業の中でも、予算状況の厳しい事業に充当する予定。
中でも今年度は、北海道の車いすバスケットボールチームが予選会を勝ち抜き、全国障害者スポーツ大会へ初出場となるため派遣費として利用し、スポーツ教室については、未だ実施されていない地域からの開催希望が増加しており、新規開催の運営費としても利用する予定。



一般社団法人 札幌市障がい者スポーツ協会

1. 団体について

設立	1995年3月7日
代表者名	会長 浅香博文
団体構成員数	10(会員団体数)
所在地	札幌市西区二十四軒2条6丁目1番1号札幌市身体障害者福祉センター内
連絡先	TEL011(612)1184

2. 活動の概要

【団体の目的】

札幌市内の障がい者に対するスポーツの普及と振興を図り、障がい者の福祉の増進に寄与することを目的とする団体。1995年に任意団体として創立、2001年に社団法人として設立。2012年に現組織となる。

【主な事業内容】

- ・札幌市障がい者スポーツ大会等のスポーツ大会の開催
- ・スポーツ教室・スポーツ指導者養成のための講習会の開催
- ・障がい者スポーツの助成、育成等

【2018年度の事業計画】

- ・札幌市障がい者スポーツ大会等の大会開催
- ・全国障害者スポーツ大会や北海道・東北ブロック予選会等の大会派遣
- ・障がい者スポーツ指導員の養成講習会や研修会
- ・スポーツ教室
- ・障がい者スポーツ大会や出場の助成、スポーツクラブ育成
- ・スポーツ協会だよりの発行

3. 寄付金の使い道ほか

- ・初級障がい者スポーツ指導員養成講習会
- ・スポーツ大会、出場助成



すずらんピック2016 (大会開催)



全国障害者スポーツ大会2016開会式(大会派遣)

2019ワールドパラノルディックスキーワールドカップ札幌大会

1. 大会の概要

開催期間 2019年3月12日（火）～3月17日（日）
主 催 特定非営利活動法人 日本障害者スキー連盟
運 営 2019ワールドパラノルディックスキーワールドカップ札幌大会実行委員会
競技会場 西岡 バイアスロン競技場

2. 大会の説明

- ・年3大会の合計で順位を争う大会、札幌大会は最終戦のため大会終了後に総合表彰式を開催
- ・国内では2015年旭川大会が初開催、2017年の札幌大会に次いで3度目の開催
- ・目はクロスカントリースキーとバイアスロン
- ・オリンピック・世界選手権に次ぐ国際大会



2017IPCノルディックワールドカップ札幌大会



2017IPCノルディックワールドカップ札幌大会

全日本障害者クロスカントリースキー競技大会

1. 大会の概要

主 催 特定非営利活動法人 日本障害者スキー連盟
競技主管 旭川スキー連盟
競技会場 旭川市富沢クロスカントリースキーコース
競技種目 クロスカントリースキー（座位の部・立位の部・視覚障害・知的障害）

2. 大会の目的

当大会は、身体、知的、聴覚、視覚に障がいのあるアスリートが全国から集い競技する、障がい者クロスカントリースキーの国内唯一の大会。
一般の部として、障がいのない小学生・中学生も共に参加し、障がいの有無にかかわらず、誰もが互いに
つながり、支えあう共生社会の現実に寄与する大会を目的とする。